

はじめに

宮城学院女子大学キリスト教文化研究所共同研究「多民族社会における宗教と文化」は、2018年度の活動として、下記の通り計2回の公開研究会およびシンポジウムを開催した。それぞれの研究会では、学外から気鋭の研究者をお招きして、活発な議論が展開された。6月16日研究会のテーマ「インドにおける女性と家族」も、1月26日シンポジウムのテーマである観光も、現代社会の急激な変化が如実に表れている領域である。いずれの研究会/シンポジウムも、文化人類学や地域研究の先鋭的な問題意識がせめぎ合う、有意義な知的研鑽の場となった。

2018年6月16日 公開研究会「インドにおける女性と家族」

「貧困を生きぬく：ワーラーナシー近郊の下層民女性の声から」

菅野美佐子（人間文化研究機構人間文化研究推進センター研究員）

「プラタ儀礼にみる社会変化と女性：ボーシプリー文化圏の事例から」

八木祐子（宮城学院女子大学学芸部教授）

「西インドの高齢女性にみる親密圏とネットワーク：新たなエイジングの模索」

松尾瑞穂（国立民族学博物館准教授）

コメント：押川文子（京都大学名誉教授）

2019年1月26日 公開シンポジウム「観光人類学の新展開：『ホスト・アンド・ゲスト』の磁場を超えて」

「趣旨説明：〈観光人類学3.0〉に向けて」

市野澤潤平（宮城学院女子大学学芸部教授）

「『観光の人類学』で問うべきこと：〈文化〉と〈社会〉の次に」

土井清美（中央学院大学非常勤講師）

「観光における人類学的実践：『文化のコンサルタント』になれるのか」

田中孝枝（多摩大学専任講師）

コメント：山下晋司（帝京平成大学教授/東京大学名誉教授）

コメント：橋本和也（京都文教大学名誉教授）

これらのうち6月16日の公開研究会について、そこでの報告内容を発表者が改めて論文として書き下ろし今号に掲載する運びとなった。執筆者には多くのご苦勞をかけることとなったが、今年度も無事に『多民族における宗教と文化』を発行できることを、感謝したい。

共同研究代表 市野澤潤平